

見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち



November						
S	M	T	W	T	F	S
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

November 2025 vol.139

◆ 海岸復興之碑

所在地：豊川市御津町大草新田

交通：JR 東海道本線「愛知御津」駅 南西 約 1.7km

昭和 28 年 13 号台風は、昭和 28(1953) 年 9 月 25 日夕方、この地域を襲った台風で、台風の通過が満潮と重なったことから T.P. + 2.80m の高潮となって、大きな被害をもたらしました。昭和 32(1957) 年 3 月に愛知県が発行した『昭和二十八年十三号台風海岸復興誌』は、13 号台風で被害を受けた、愛知県の海岸堤防の復興の記録をまとめたものです。

復興誌によれば、愛知県の海岸堤防は 156km にわたり被災し、692 箇所が決壊、海岸付近の約 23,000ha が冠水して、一面の海となったとされ、愛知県における死者は 72 名、負傷者は 1,711 人、建物の全壊 1,477 戸、流失 608 戸、床上浸水約 31,000 戸に上り、農地農林被害や水産被害なども含めた被害額は 675 億円（当時）に上ったとされています。

台風の通過後は、まず、堤防の決壊による冠水状態を解消するため、堤防の応急締切工事が行われました。174 箇所、13km に及ぶ締切工事は、住まいやなりわいの復旧のためにも急がれ、11 月 15 日までに完了しました。この締切工事とともに、堤防の本復旧計画として、知多半島の西側・横須賀から、衣浦湾の半田・武豊を経て、三河湾の幡豆、宝飯、豊橋、田原、福江まで、延長 172km、総事業費 199 億円に及ぶ復興事業が取りまとめられ、コンクリート製の堤防による本格的な堤防の復旧復興工事が行われました。

13 号台風による愛知県の海岸堤防の復旧復興事業は、昭和 31 年度までに主要な部分が完成し、昭和 32 年 4 月 11 日には、天皇・皇后両陛下が、海岸堤防復興の状況を視察

されました。御津町大草の海岸堤防を望む場所には、13 号台風からの復興と、両陛下の行幸啓を記念した海岸復興之碑が愛知県により建立され、復興誌の冒頭に、当時としては貴重なカラー写真で掲載（後に追加）されています。碑文では、台風 13 号により「(愛知県) 全域に亘つて甚大な被害を齎らしその総額六百七十五億円に達し」「特に海岸の被害は激甚を極め被災延長百五十六軒復興所要額百五十億円に達した」とされ、「爾来関係当局の格別なる配意と県民の撓まざる努力に依り漸く今日の復興をみるに至つた」ことが記されており、「昭和三十二年四月十一日には天皇皇后両陛下この地に親臨され未曾有の大事業たる海岸堤防復興の状況を審さに御視察遊ばされた 茲に両陛下の行幸啓を記念し海岸復興の碑を建て永く県土守護の象徴とする」と記されています。また、海岸復興之碑の道を挟んだ向かい側には、天皇・皇后両陛下御野立所の記念碑が、当時の御津町により建立されています。

石積みの海岸堤防からコンクリート製の海岸堤防への改修は、6 年後に襲う伊勢湾台風に対し効果を発揮し、高潮被害が軽減された場所もあったとのことです。

なお、海岸復興之碑のすぐ北には、13 号台風から約 60 年前に当地域に甚大な被害をもたらした、明治 22(1889) 年 9 月 11 日の高潮による豊川市大草での犠牲者 11 名を慰霊した、水死者追弔碑もあります。



(上) 海岸復興之碑
(下) 水死者追弔碑
(国土地理院 HP より)



◆ 災害にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い（二度と被害を繰り返さないように、など）が込められています。碑や史跡の前では、災害が実際にこの地域で起こるということを実感していたくとも、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。

◆見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち バックナンバーから

● 下佐脇村 (vol.80,2020.12)

所在地：豊川市御津町下佐脇

交通：JR 東海道本線「愛知御津」駅 南東 約 1km

三河湾に面する豊川市は、東三河地域において津波被害は少ない地域ですが、過去いくつかの記録が残されています。そのひとつが、宝永 4(1707) 年の宝永地震です。宝永地震では、太平洋岸には 10m を超える津波が襲ったとされていますが、三河湾内にも津波が及びました。下佐脇村は、江戸中期には人口 1,000 人程度、200 軒余りの一帯で最も大きな村で、アサリやノリの採取、製塩などが営まれていました。村は宝永地震以前にも、暴風雨により被害を受けてきましたが、宝永地震の津波では特に被害が大きく、塩田が全滅、水田や畑も被害を受けた記録が残されています。

この他、同様に三河湾に面する大草村、坪野村でも宝永地震による津波の被害の記録があり、大草村では 8.5km に

わたり堤防が破損しています。いずれの地域も、地域住民の生活を支えていた塩田が大きな被害を受けました。

豊川市では、嘉永 7(1854) 年の安政東海地震でも津波による被害が発生しています。安政東海地震では、三州五か湊のひとつ、御馬湊で、津波のため 500 俵が海面に引き出された、との記録が残っています。

さらに、地震の時代は定かではありませんが、伊奈町の東漸寺は、前芝村にあったものが、明応元(1492) 年以前の津波により、本尊の地蔵尊が伊奈の地に漂着し、村人が堂宇を建て、これを東漸寺とした、との言い伝えがあります。

ここに挙げた津波被害の記録は、パンフレット「愛知県東三河地域における地震による津波の歴史」や「東三河津波歴史調査研究業務報告書」(いずれも東三河地域防災研究協議会) に、わかりやすくまとめられています。

◆詳細は、見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち vol.80 (<https://www.gensai.nagoya-u.ac.jp/rekishijishin/geppo.html>) をご覧ください。

★ あいち防災フェスタ

あいち防災フェスタは、毎年 11 月第 2 日曜日の「あいち地震防災の日」に合わせて、愛知県が 2007 年から開催している防災啓発イベントです。今年は 11 月 9 日(日)に、豊川市のイオンモール豊川で開催されます。

当日は、防災〇×クイズやお笑いライブ、キャラクターショーなどのステージイベントのほか、防災啓発ブースの出展、防災車両の展示など、様々な催しが行われます。同時開催の「イザ！カエルキャラバン！in 東三河」では、水消火器による的当てゲームやジャッキアップゲームなど、楽しみながら防災知識が身につくイベントが開催されます。さらに、「ペット防災マルシェ」として、災害時に役立つペット用防災グッズの紹介なども行われます。



～宿場町を巡る～

平坂街道は、豊川市小坂井町で東海道から分岐し、蒲郡市や幸田町を経て西尾市平坂町の平坂湊に至る、約 39km の街道です。

三河の海岸地域は製塩業が盛んで、大塚(蒲郡市)の塩は街道を東へ運ばれ、小坂井から信州伊那へ、饗庭や生田(西尾市)の塩は、西の平坂湊から矢作川を北上し、岡崎城下を経て、足助街道で運ばれました。この他、三河木綿なども平坂湊から江戸へ運ばれるなど、江戸時代の主要な通商路となっていました。

●ブレイクタイム●

♪ 日本列島公園

日本列島公園は、豊川市御津町の三河臨海緑地にある日本列島を模した公園で、映画『君の名は。』にも周辺の風景が登場し話題になりました。入口は関門海峡をイメージしたゲートで、富士山を始め山々を地形、河川を園路で表現したほか、愛媛県のみかんや山形県の将棋の駒のベンチ、県の花のタイルや各地の民謡の歌詞プレートなど、全国各地を意識した工夫がされています。また、列島の北から南にかけて、針葉樹、落葉樹、常緑樹が植えられ、地域ごとの木々の違いも表現されています。



豊川市観光協会 HP より

◆この地域の災害に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、gensaisan2014@gmail.com まで情報をお寄せください。

◆この地域の歴史災害記録をオンラインツアー形式、マップ形式で紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『災と Seeing』のホームページ (<https://www.saitoseeing2020.jp/>) をぜひご覧ください。

(発行：減済の会・名古屋大学減災連携研究センター 2025 年 11 月)